

平成 29 年 7 月九州北部豪雨における被害の概要

【平成 29 年 7 月九州北部豪雨の概要】

7月5日から6日にかけて、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響等により、線状降水帯が形成・維持され、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、九州北部地方で記録的な大雨となりました。

特に本市では、観測史上最多の降水量を記録し、僅か数時間で7月の月降水量平均値を超える大雨となるなど、市内全域で甚大な被害が発生しました。

【人的被害（H29.10.25 現在）】

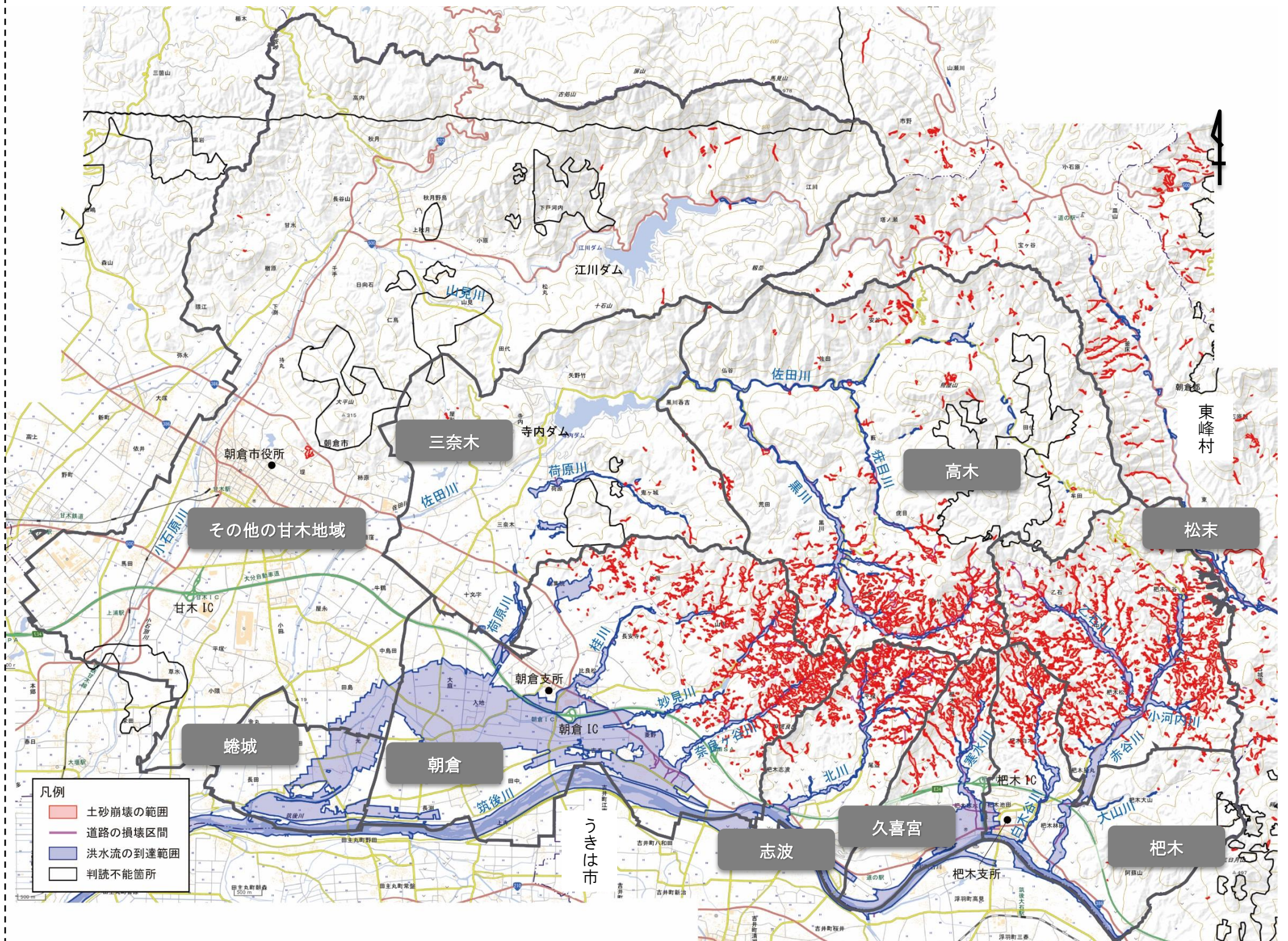
人的被害	44名
死者	30名
行方不明者	4名
負傷者	10名

【り災証明の状況（H29.10.25 現在）】

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
松末	86	24	36	37	183
杷木	41	24	41	28	134
久喜宮	27	53	74	32	186
志波	28	3	20	15	66
朝倉	19	18	271	161	469
高木	29	9	20	31	89
三奈木	2	1	28	26	57
蟬城	1	0	153	57	211
その他甘木	0	0	14	19	33
計	233	132	657	406	1,428

【被害の特徴】

記録的な豪雨の影響により、市内各地で多数の山腹崩壊が発生し、土砂と一緒に過去最大級とされる大量の流木が流出しました。また、桂川水系では、複数の箇所では堤防が決壊し、広範囲にわたる浸水被害が発生しました。これらの影響により、多くの住家に大きな被害をもたらすと同時に、多数の道路が通行止めになり、水道等のライフラインも寸断され、長期にわたる避難生活を余儀なくされる集落も出ています。



出所：国土地理院の地図を加工